

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷九第

行發日一月七年八正大

庭園都市に就いて……………法學博士 田島 錦治

支那投資の國際的共同……………法學博士 戸田 海市

住居税と公平負擔……………法學博士 神戶 正雄

社會政策より觀たる我國の財政……………法學博士 小川郷太郎

人糞尿の國益……………法學博士 財部 靜治

マルクスの唯物史觀に謂生産の意義……………法學博士 河上 肇

植民地の勞働政策……………法學博士 山本美越乃

ベンチーの組合社會主義論……………法學博士 河田 嗣郎

明治の米價調節……………法學士 本庄榮治郎

海運と國民經濟……………法學士 小島昌太郎

最近の出産率減少に就いて……………文學士 高田 保馬

## ペンチーの組合社會主義論

河田 嗣 郎

## 一 ペンチー氏の主張と立場

組合社會主義 (Guild Socialism) の思想を窺はむが爲めに、茲にペンチー氏 (Arthur J. Penty) の地方的組合社會主義 (Local Guilds) の主張を叩いて見たいと思ふ。

組合社會主義には雑誌『新時代』“New Age”一派の國家的組合主義 (National Guilds) の主張とペンチー氏等の地方的組合主義の主張との兩派がある。兩者は其の根本の思想に於て甚しく相違せるものではないが、將來に於ける新社會組織の構成に關する見解と計畫とに於ては、少からず趣を異にする所がある。ペンチー氏は一九〇六年に『組合制度の復興を論ず』The Restoration of the Guild System, London.) を公にして其の主張を明確に樹立して以來、地方的なる手工業組合制度の復興に依る現社會組織の改造を主張して來た。而して現今尙ほ依然として其の主張を改めたわけではないが、然し歐洲大戰の行はれて以來は、稍々主張を變じ、國家的組合主義ナショナルギルドの可能を信ぜんとするに至つた。從て今や組合社會主義に於ける二派の分別は漸次其の色彩の明瞭を缺ぐに至

らんとしつゝありと見る事が出来る。

一九一七年刊行の *Old Worlds for New, London* を見るに、ペンチー氏は其の序文に於て、氏が國家的組合主義の可能を認むるに至りし理由其他社會改造に關する一般の見解に就いて大様次の如く述べて居る。

「予が從來推奨し來れる、地方的なる組合制度の復興を以て將來の經濟組織の基礎を造り之に依りて社會革新の實を上げんとするの議論は、其の實行困難なりと非難せらるゝ。此の非難は當れりとせざる可らず。予も亦、予の計畫する所と現在の經濟組織との間には大いなる溝渠ありて、其間を連結せんことは今俄かに行はれ得可きに非ざるは、之を認めざるを得ない。現時の實行問題としては彼の賃傭勞働制の廢止を目的とする國家的組合ナショナル・コンビネーションの組織を以て實行し得可き形式とせざる可らず。併し乍ら之れ決して問題の終局的解決にはあらず。勞働者にして一旦産業上の支配權を握るに至れば、現時の産業主義インダストリアルイズムの下に横はる大矛盾は根本的解決を要求せざれば已まざる可く然かも其解決は地方的組合制度の道に沿ふて行はるゝの外はない。

元來地方組合制度を主張する予が何故に國家的組合主義に對する態度を變せしかと問はるゝならば、其の責任を負ふものは今回の大戦争なりと答へざる可らず。從來予は、社會は平和の手段に依りて革新さる可きものなりと信じた。予も亦固より革命の可能を信する者なれども、そは容

1) 此の書名は H. G. Wells 氏の *New Worlds for Old, London 1913* と對比し見るに於て頗る興味ありと思ふ。

易に實現され得可きにあらずと考へた。此の條件の下に於ては、資本主義を攻略して以て新組織を造らんとする國家的組合主義の計畫は所詮實行不可能の事と思はれた。予は思へり、資本主義は内部よりして之を亡ぼさざる可らず、正面攻撃を以て之を略取し得可きものには非ずと。然るに今回の大戦は局面を一變した。今や資本主義は難攻不落のものにはあらざるに至つた。戦争は其の反動の勢に依りて資本主義を破壊せしめ、大革命を豫想せしむる。此の事情の變化の下に於て國家的組合主義の運動は新生面を得た。戦争といふ事實は此運動を化して實際政策上の問題たるに至らしめた。

戦後に於ては國家が國內の産業に干渉を試み其の管理權を掌握し、自然的獨占事業を手始として炭坑其他に關する大いなる國家管理の行はるゝに至る可きや明かである。而して國家が益々廣く國內の産業管理を行ふことは國家社會主義コロンチヂイズムに向ふか、將又國家的組合主義ナショナルセルヴシズムに向ふかの外はない。然るに予はそは決して國家社會主義に向はずして、國家的組合主義に向ふと信ずる。國家の管理權の擴張が右兩者其の何れに向つて進むかは其管理の實行如何を見て定めなければならぬ。若し國家が生産事業を私人企業の手より奪ひて自ら經營し、官吏をして其任に當らしむるの方法を取るならば、そは疑もなく國家社會主義に向はんとしつゝある。然るに若し管理が唯だ一般民衆若くは勞働者を資本主に對して保護せんと企つるものならば、國家は昔時ギルドの組合の行ひたる任務を再

び行ふものたるに外ならずして、それは必ずや將來に於ては復興されたる組合ギルドの手に依りて行はる可きものである。

國家にして一と度財貨の價格調節に指を染むるに至らば、其事業をして實力ある有効のものたらしめんが爲めには、必ずや中世組合の行ひたる所を行ふの外はない。されば價格の一定てよことは、已に組合制度に至るの道である。其然る所以は歴史の證明して剩さざる所にして、價格を一定せむが爲めには、品質の一定標準を見出して之を維持せざる可らず。然かも品質の標準は唯だ法令の力のみを以て之を一定し得可きものにあらずれば、標準維持の爲めには實際其の製作の任に當る職人と一般輿論の良心に之を訴へざる可らず。而して職人をして此の權威ある者たらしめんが爲めには、組織の力に依りて其地位を守らしめ、又其の養成を嚴重にせざる可らず。其爲には労働の時間を定め、生産の範圍を限定し、仕事場の大きさを定むる等の施設を爲さざる可らず。之れ實に中世組合制度ギルドシステムの復活に外ならぬ。」

此の簡單なる表白に依りても略ぼペンター氏の主張の眼目の那邊に存するかは之を窺知するところが出る。要するに之れ現時の資本主義的なる企業組織に代ふるに復活されたる中世組合制度の新組織を以てし、以て現時の經濟組織に伴ふ諸種の弊害、特に賃備労働と企業家の資本的支配より來る弊害を除去し、同時に現時に於ける物質主義を排し營利心を亡ぼし、之に代ふるに純美なる

思想と感情とに満ち藝術と哲學とを以て彩られたる精神生活を以てせむとするが、其の主張の骨子である。されば氏は極力シドニー、ウエップ氏其他フェビアン、ソサエチー一派(コレクティブイズム)(集産主義、國家社會主義)の唯物的見解に反對し、其の社會改造に關する國家的集産主義のプログラムに反對し、自家の見解を闡陳し、自家のプログラムを示すに努力しつゝある。吾人は先づ其のコレクティブイズム排斥の議論より入つて見るであらう。

## 一一 コレクティブイズム反駁 (一)

マンチー氏の謂ふには、誰でも政治的活動を社會哲學者の稍々離れたる而して孤立せる觀點より觀察する者は、現今社會主義者が互に論争しつゝある所には、何となくバセチックな或物あるを見るであらう。何人でも自己の背後に確乎たる理論を有する者は、其の態度に自信あり勇氣に満てるものたるを得る。然るに若し其理論にして矛盾に満てるものならば、いかでか自信あるを得んや。現時の社會主義者の境遇は正に此の自信なきものたらざるを得ない。今や多くの方面よりコレクティブイズム社會主義は死滅せりと稱せらるゝ。皮相的に見ればそれは眞實なるに似たり。されども詳かに之を觀れば、コレクティブイズムは實地政策としては全く不信用に陥つたけれども、一の哲學としては尙ほ命脈を有し、從て尙ほ社會運動の運命を支配するに足るものあるを認めなければならぬと<sup>4)</sup>

3) 主として Collectivist を指す

4) Penty, op. Cit. pp. 23-25

斯く先づコレクチヴィズムに對して止を刺して置いて、扱て又更にコレクチヴィズムの唯物的傾向に就いて非難して謂ふには、物質的事實を基礎とせざる推理に對する現時の有識者階級の反對は大いなる僻見である。社會に於ける創造的實力にして又事物の根元たるものは精神である。現象は物質世界に於ける精神の表顯に外ならぬ。されば社會問題に對する推理を唯だ單純に事實として知らるゝ現象の上へのみ限るに於ては、吾等の推理は人生の最も重大なる要素を閑却することゝなるを免れぬであらうと。此點は洵にペンチー氏等の主張の大眼目であつて、恰も獨逸に於てマルクス主義の唯物的傾向に對してベルンスタイン其他の人々の修正意見起り、マルクス主義に於ける倫理觀の缺如に慊らずしてカントに歸れの主張の擧げられ、一般的に思想界に唯神的傾向が勢力を加へ來れるに連れて、社會問題に關しても唯神的主張の復活を見んとしつゝあるに對應して英國に在りても唯物的傾向に富めるフェビアン主義に對して、此種の反抗の氣勢の動くに至れるは注意を要する所である。尙ほペンチー氏はフェビアン派一味の唯物的傾向に就いては次の如くに解説して居る。

フェビアニズムが物質主義に墜したるには理由あることで、フェビアンスは貧困の問題に對する直接の救済策を見出すに急なりしが爲めに、藝術と哲學との要求を無視したのである。即ちそれは實に、諸種の實際問題は其背後には必ずや形而上的問題を有するものたるを了解せず、又産業

に於ける藝術の要求は、人生の要求と同一義たるを了解する能はざりしに由る次第である。フェビアン協會の人達は人生の實相を捕捉せむが爲めには餘りに理知的である。然しコレクチヴィズムが藝術と哲學とを等閑に附したるには相當の辯解の理由ありとするも、それが道德的要素を無視せるに就いては、辯解の辭はない筈である。何となれば、社會問題の道德的要素に就いては夙にラスキン之を喝破し、フェビアンスの間に於ても此問題に就いては可也激烈なる論争の行はれたる後なれば也。兎も角實際に於てはコレクチヴィズムは倫理觀と分離せる經濟的理論である。而して之れ實にコレクチヴィズムの中心弱點であつて、實行上の問題に於て道德を度外視するは事實不可能のことで、又それで能く終に人心の琴線に觸るゝを得可きものではない。<sup>6)</sup>

コレクチヴィズムは斯くの如く社會問題の精神的方面を等閑に附せしが爲めに、社會改造の大事業を企圖し乍ら終に失敗に終らざるを得なかつた。之は取も直さずコレクチヴィズムの救治せんと欲する社會的害惡は結局する所社會生活の内部に存する精神的疾患が外部に表はれたる兆候たるに外ならぬからのである。此事情は社會進化の觀點よりして現時の状態を観察するに於ては容易に解得さる可き所である。然かするに於ては此等外界の物質的問題の發生が、如何に多く現代の生活が宗教藝術及び哲學と分離して世を擧げて醜き唯物主義に墮落し、唯だ金儲<sup>ゴッド・メイキング</sup>を以て之れ能事とするに至りし内部の精神生活の墮落と、一致呼應するものなるかを知るに難から

6) ibid pp. 33, 37-40



ぬであらう。若し現時の精神生活にして斯く墮落することなかりせば、コンクチヴィズムの理想とする所の如きは多く顧みられずして、人心は必ずや將來の社會の建設せらる可き基礎たる醇美なる個人主義に向ひたる可きや明かである。

若し能く此等の諸事情が如何なる關係を有するかを知らんとすれば、吾等は伊太利に於ける文藝復興期<sup>イサンズ</sup>まで遡りて考へて見なければならぬ。文藝復興は實に基督教の教義に依りて束縛せられたる中世時代に對して古代文明の復活を喚起し、以て自由なる活動の天地を造り出せるものとして知られて居る。而して中世時代が如何に沈滞せし時代なりしかは絮説を俟たざる所である。けれども詳かに之を察すれば、中世時代なるものは一概に唾棄する可きものではない。其時代の精神には大いに酌む可き醇美なるもの、含まれ居るを忘れてはならぬ。中世時代は實に事物調和に關する大意義を了解したる時代であつた。此時代は宗教及び藝術に對する憧憬の熾なりし時代に於て、現代人の生活を占領する商業と政治とは、唯だ從屬的のものたるに過ぎなかつた。此時代は爾自らの如く爾の隣人を愛せよといふ教の眞實に行はれたる時代にして、人々は相互共助<sup>ミューチュアル・ヘルプ</sup>の精神を體得して、社會の構成を爲したのである。社會の各部分は其有す可き天職を有し職分の混雜は最も注意して忌避せられた。職人は職人、商人は商人にて各々職業的組合を造り、前者は自己職業團體の保護と改善とを専らとし、其製品の良質なること、品位を統一すること、に熱心し、

後者は又商品の分配交易を圓滑ならしむるに努力貢獻した。

中世時代に於ける外形的生活を觀察する者は最も多く其驚く可き又一般的なる整美に打たれざる者はなかる可し。中世時代に在りては常に建築の壯大美麗なりしのみならず、日常に用ひらるる什器の類に至るまで美はしきものであつた。然るに現代に於ける事物の醜さや如何に。都市に於て、郊外に於て、住家に於て、衣服に於て、家具に於て、總べて現代臭きものは醜惡なるを例とする。

中世時代に在りては美術家と職人とは同一人であつた。當時に在りては大建築の行はるゝにしても、現時に於けるが如く之を設計し其細末に至るまで一人にて之を監理する技師は居なかつた。各職人何れも藝術家的素養を有し、如何なる大建築も彼等多數者の共同作業に成れる共作物たるに外ならなかつた。而して總てそは傳習の力に依りて行はれた。然るに一と度文藝復興の大勢力に依りて此傳習の系統の絶たれたる現時や如何に。職人は昔時の職人氣質かたじけなくを失つてしまつた。彼等は單純なる職人と化して美術家たる素質を失つた。されば彼等は用ゆ可き多くの方式スタイルを有すれども之を活用するを得ず。茲に於てか計畫と技術的監督とを專業とする技師を必要とするに至つた。然かも同時に昔時の美術家的良心と深き醇美なる趣味とは失はれて、方便と流行とが獨り權威を擅にしつゝある。

斯くの如くにして文藝復興は中世時代の束縛を釋き、其傳習の勢力を根柢に於て斷ち切りて現に吾等が周圍に之を見るが如き全然一變せる世の中を造り出した。然かしそは中世時代の桎梏を解かんとして不幸にも眞に善美にして價值あるものを打亡ばしてしまつた。爲めに藝術と生活とは全然分離するに至つた。斯くて今や美術は少數なる愛玩者流やチレットタントの玩具と化し、博物館や美術館に隱居して、現代の生活は其の純美なる表現を失ひ方便に凝結して日に益々其の醜き相を増しつゝある。之が爲めに職人は今や又漸くに金錢の爲めに勞働する單純なる勞働者と化せんとし、生産は工場組織に依りて大量的に行はれ、昔尊ばれたる技術上の變化バラエチは現今却つて其の整ユニフォーミテ一の爲めに地位を讓らざる可らず。然かも生産は需要に先立ちて行はれ、生産と使用(消費)とは分離し、生産者は只管投機的に事業を行ひて、眞實の人的要求を顧るに暇なき有様となつた。要するに今や宗教と藝術と哲學とは生活と分離して、替てはたゞ從屬的要素たるに過ぎざりし事務と金儲と政治とが、人生々活上の最も重大なる勢力たるに至つた。事物の此の不自然なる轉換に現時の社會問題は其根柢を發するものである。<sup>7)</sup>

斯くの如く論じてペンチー氏は現今社會問題の發生の根本原因が現代人の精神生活の不健全なる變化に崩し、事物の調和の失はれて主たるものが従となり、従たるものが主となりたる不自然なる變化が實に現代生活の病の原を爲すものなるを指摘せんとするのである。之れ氏が中世組合

制度の復興を以て社會改造の方法と爲さんとする理論上の根據である。而して氏は此の病の根源を知らずして、只管其の兆候に對する姑息の治療を試んとする社會主義者の愚を嗤ひ其の謬想を排斥せんとするのである。

### 三 コレクチヴィズム反駁 (二)

右は見解の根本的立場に關する議論であるが、之を經濟上の現實の問題に就きて觀るも、コレクチヴィストの見地に對しては、組合社會主義者は到底之に一致することが出來ぬ。

コレクチヴィズムは現今の産業上に於ける大弊害を徹底的に救治せんが爲めには、土地及び資本を國有とし、私的企業を廢して産業の國營を行はんとするものである。之に對してペンチー氏の致へるには、斯くの如き救治策は、若し現存の社會的缺陷が競争(個人主義的自由競争)に存するものならば、確かに有効なるを疑ふ可らず。然れども競争はそれ自身一の惡事にはあらず。其の惡しきは競争の行はるゝ諸多の條件が本質的に惡しきが爲めである。昔時に行はれたる競争と現時行はるゝ競争とは少からず其の性質を異にする。之を商業競争に就きて見ても、昔時組合制度の存せし時代在りては、商品の價格は勿論のこと勞働の條件や時間等も一定せられたれば、競争は唯だ製品の品質を好くし、之を美にし之を堅牢にするといふが如き點に於て行はれた。然るに

組合制度崩解して自由競争制の行はるゝに至り、商業が専門的に金儲業者ファイナンシヤの手に依りて行はるゝに至りてよりは、商品に關する競争といへば、専ら其價格を低廉にすることに存するに至り、安價てふことの爲めには總てを犠牲にして顧みず。爲めに昔時は競争の行はるゝは社會的に之を觀て健全なる事實たり、大いに刺激を齎すものたりしに、今やそは却つて種々の危險と弊害とを齎すものたるに至つた。されば現時の競争は營利主義ユエーリシヤリズム Commercialism であつて、昔時の競争は眞實の競争 Competition たり。而して營利主義ユエーリシヤリズムは金儲業者の手に依りて産業を支配することなるに反して、競争コンペチツシヨは實に親方や職人の間に於ける生産技術上腕競べであつた。

然るに今コレクチヴィズムは營利主義を排除せずして、却つて競争を排除せんと欲す。よし資本主の手より産業上の支配權を奪ひて之を國家の手中に收むるとも、そは多く産業の性質に觸れて之を改造することはない。コレクチヴィストは其の社會改造の實行策に就きて方策を樹てんとすればするほど益々多くの困難に遭遇せざるを得ず、其爲めに國家機關を改造することの如何に困難なるかは汎く認めらるゝ所である。コレクチヴィズムの世が實現せらるるとも、現時の營利主義ユエーリシヤリズムは依然として其害毒を流し、社會一般は之が爲めに毒せらるゝを免れ難い。何故となれば國家が生産を一手に獨占して行ふに至れば、それが事業として引合ふを必要とし、之を企業として存續せしむるに熱中して、社會一般の利用とか便宜とかいふが如き他の方面の要求は之を第二位、第三位

に置くを改めざる可きを以てある。一言にして之を掩へばコレクチヴィズムは國家的營利主義に外ならぬ。現代の人々が現在の生活状態と思想とに結ばれたる限り、又現在の如き不統一なる趣味を有する限りは、産業の管理を行ふ任に當る國家の政府は、やはり現時に於けると同様に需要供給の關係に翻弄せられ、趣味の變化は恰も輿論の變化が政治に對すると同様なる勢力を振ひ、業務は常に之が爲めに擾亂さるゝを免れ難いであらう。

此事は人をしてコレクチヴィズムの教義の大誤謬に想到せしむる。其誤謬とは政府は依然として各人の消費者としての要求に聽従せざる可からずと爲すこと之である。若し現時に於ける諸多の弊害が全く生産者の專横より發生するものならば、生産者の犠牲に於て消費者の利益を増進せしむるは正當とせなければならぬ。然れども實際の事情は決して然らず。固より個々の生産者に就きて見れば随分惡徳なる者なきに非ざれども、一般的に謂へば生産者は自衛上止むを得ず惡事を働く場合寧ろ多くして、消費者に於て毫も正直なる生産者を庇護するの志なく、唯だ安價に出來得可くんば無を以て有を購はんとばかり企つるが故に、茲に則ち惡辣なる生産者が其隙に附け込みて生産界一般の状態をして弊害に満てるものたるに至らしむる。正直なる者は常に其の犠牲とならざるを得ぬ。現時の生産界に於ける無政府的狀態は必竟之れ消費者の專恣に依りて誘起さるゝ所たるを否み難いものがある。此の弊害ある状態は國の産業を國家の管理の下に置くことも

除却せらるゝことなく、寧ろ却つて助長せらる可きのみ。

生産技術上に於ける藝術的發達は昔時に在りては個人的保護者パトロンのありしが爲めに好く行はれ得たれども、若し生産一切國營となり、其の方向は常に社會民衆の趣好に依りて導かれ、大多數者の好む所が支配權を握るに至れば、生産技術上に於ける藝術的要求は之と共に亡滅に歸す可きや明かである。

ラスキンの言に従へば、凡べて生産の社會的効用を計らんとせば、それは客觀的なる貨幣上の標準に依る可らず、必ずや人々の主觀的なる人間としての幸福を標準とせなければならぬとせらる。若し吾等にしてラスキンの言ふ所を以て立場とするに於ては、必ずや先づ生産者としての資格に於て人々を觀なければならぬ。此觀點よりすれば、人々の精神的健康、特に道德的健康は、彼が其仕事に於て見出し得る喜悅の量に依頼せなければならぬ。更には又多數者が消費者であつて、少數者が生産者たる状態の下に於て若し専ら消費者の利益を主眼と爲して立法を行ふに於ては、そは怠惰に對して恩恵を施すことゝなるを免れぬであらう。蓋したゞ怠惰なる者のみ生産を行ふことなくして消費を行ふ者たれば也。

現今生産は大規模經營に依り大工場組織の下に於て最も有効に行はるゝものとせらるれども、然かもそが有利なるには自ら一定の限度あり、其限度を超へては却つて費用嵩みて生産の効果之

に伴はず、何れかの道に於て費用を節約するの必要に迫られ、終にはスウェッチングを行ひて之が補充の道を見出さざる可らざるに至る。又斯かる大規模生産は生産の種類に依りて之に適するものと然らざるものとあり、機械の働に依頼する所の大なるものは好く之に適すれども、然らざるものは之に適せず、形状の優美や其他に關する趣味の伴ふを必要とする物は之に適せざるのみならず、餘りに地方的なる産業も之に適せない。何れにしても現今生産の効果を餘りに數字にのみ依りて判斷するに傾き、人を主眼に置きて之を見るの風乏しきは、悲む可きこと、謂はねばならぬ。クロボトキン氏が『農地、工場及び仕事場』<sup>8)</sup>に於て巴里の實例に就きて手工業的小産業の優秀なる性質を論示せし所は、洵に傾聽に値するものがある。今若し此事情を無視してたゞ只管に大規模事業の有利なるを主張し、従てコレクティヴイズムの組織の下にあらゆる方面の事業の有効に行はれ得て、一般的幸福を齎し得可しと考ふるあらば、それは餘りに粗雑なる考と謂はねばならぬ。

次に機械の使用に關してはコレクティヴイズムを奉ずる人々は、將來の社會に於てはそれが益々盛に使用せられざる可らざるを主張する。機械が大いに人の勞力を省き苦役賤役を省き、然かも大いに生産物の數量を増して、人生を充實せしめたることは、近世科學の大功績として何人も之を認めなければならぬ。然れども總ての勞働を化して賤役たらしむること、科學をば商的利得の爲めに濫用すること、は、右とは全く區別して考ふ可きものである。然かも機械は斯くの如き結果

8) P. Kropotkin-Frilds, Factories and Workshops.



を齎すことなしと謂ひ得らるゝや。機械は迅速に多量のものを作れども、人の手に依りて作られたるが如く優れたる物をば作り得ぬ。何れにしても機械は目的にあらず手段たるに外ならざるに、若し機械が美しき物を作りて、之に對する人の欲望を満すに多く奉仕する所なくして、主として金儲慾の満足の爲めに奉仕するものなりとせば、機械の効用も亦疑はしとせなければならぬ。

要するに現時の經濟は餘りに貨幣利得に重きを置き過ぎて居る。現時の弊害を救はむが爲めには、經濟上に今少しく人格的なる要素を加味せなければならぬ。而して之が爲めには生産者と消費者とが互に好く相識れるを必要とし、生産交易に關して昔時の地方的市場ローカルマーケットを回復するを必要とする。現今交易が餘りに世界的になれるが爲めに、生産と供給とは常に需要と消費とに先立ちて行はれ、其結果として屢々市場の混亂を惹起する次第なれば、此の不自然なる状態を改善せむが爲めには地方的市場を回復し生産をして實際の需要に適合せしむるを必要とする。尙又之を美術の方面に就きて見るも、地方的市場の復舊は右同様に必要な所である。若し美術にして昔時の状態を回復し、吾々が日常使用する財貨に至るまで今一度昔時の如く美しきものたらしめむが爲めには、地方的市場を再建することは必要缺ぐ可らざる所である。若し美術にして健全ならむか、外國製品を多量に輸入するが如きことは行はれ難かる可く、人々は自己の住ぶ地方に於て生産せられ、自己の日常生活に共通なる經驗を反射するが如き地方産の財貨を需要す可き筈である。さすれば、

は英國人にして日本の美術品を輸入し、日本人にして英國の美術品を輸入するが如きことは、多く行はれざるに至る可く、よし行はるゝともそは唯だ藝術の教養啓發の爲めに行はるゝに過ぎず日常生活の爲めに行はるゝことは多く之れ無きに至るであらう。文藝復興運動ルネッサンスの失敗せしは、それが國際的にして美術に於ける地方的要素を排除するに努めたるが爲めでなければならぬ。

洵にコレクチヴィズムはある限定されたる事業を爲す可く生れ出でたるもので、然かも其の事業の成就さるゝと同時に消滅す可きものである。恰も自由主義リベラリズムが十八世紀に於ける腐敗せる寡頭政治オリガに反對せんが爲めに起りしが如く、コレクチヴィズムは又個人自由主義の伴生せしめたる弊害を除去せんが爲めに表はれ出でたるものである。即ちマンチエスター派マンチエスターの自由放任の見解と政策とを打破せむが爲めに、營利主義コムイシアリズムの非人道を廢除せむが爲めに、又社會に於ける道德性を喚起し協助相互主義の理想を復活せしめんが爲めに生れ出でたるものである。此等の點に於ては吾等はコレクチヴィズムに負ふ所多くして、其の存在の理由は實に茲に存する。然れども詳かに惟へば、恰も亦自由主義が其目的を遂行せんが爲めの力ポルトクラシーとして金權政治を用ひたるに依りて失敗せしが如く、コレクチヴィズムは民衆に訴へ民衆の力に依りて業を爲さんとする點に於て失敗せざるを得ない運命に陥つて居る。<sup>9)</sup>

右の如く論じ來つてペンチー氏は、コレクチヴィズムが現今大病弊たる營利主義コムイシアリズムの經濟を打破

9) Penty, Restoration of the Gild System, pp. 2-42.

せんとして却つて自ら國家的營利主義に陥らざるを得ざること、コレクチヴィズムが消費者本位の見解に捕はれたるの誤れること、生産上に於ける數量本位の呪ふ可くして品質本位の尊む可きに拘らずコレクチヴィズムは依然として數量本位制なること、之に關聯して大規模生産の有利なる範圍と機械使用の效果の限度とに就きて鋭利なる批評を試み、其の批評よりして聽て現制度改造の道としては營利の爲めにせず必要の爲めにする生産、從て品質本位の生産の行はる可き組織を提唱し、組合制度の復興に依りて、生産者の良心と技倆とに訴へて整美なる財貨の供給の行はる可き道を致へ、他方市場の復舊に依りて好く需要と供給、生産と消費との完全なる連結を成就せんと欲するのである。此等に關する氏の議論の眼目は數本位に對する質本位の提唱に存する。質本位觀なるが故に即ち現制度を呪ひ、コレクチヴィズムを非難し又其の失敗の理由を其の數本位主義に歸するのである。又氏は質本位觀に據つて立つが故に則ち技倆を中心とする生産組織たる手工業組合制度の復興を企圖するのである、而して氏が現制度及びコレクチヴィズムの唯物的傾向を排し、又數本位制を反けて質本位制を推奨する議論には洵に傾聽に値するものがある。社會問題の根本的解決を只管に制度組織の改造に依りてのみ行はんとすること、到底十分なる効果を收め難きを信ずる吾人は、而して又吾等の日常生活より漸次に美の要素の秘化するを悲み、生活の美化と業務と勞働の藝術化とを主張せんと欲する吾人は、ペンチー氏の此等の議論に對し

ては大いに共鳴する所なきを得ないのである。

#### 四 中世手工業組合制度の復興

扱て進みて問題の積極的方面に入り將來の社會の建設に關する議論を窺はんに、先づ十分了解されざる可らざることは、既述の如く現時の社會の弊害は競争の行はるゝことに存せずして營利主義の行はるゝに存すとせらるゝことである。さればペンチー氏等の考にては社會改革の主たる働は産業方面に於て行はる可くして、主として政治方面に於て行はる可きものとはせられない。營利主義を打破せんが爲めには、産業の管理權を金儲業者の手より奪ひて之を職人の手中に歸せしむるを以て第一要務とする。然かれども斯かる産業的革新を行ふに就けては、問題は本來政治的のものに非ずとするも、政治的努力に依りて其運動の大いに助勢せらるゝは之を否み難く特に立法の力に待つ所の大なるや勿論である。而して革新の眼目は一般的に生活に對する今少しく高尚なる道念の涵養に存し、餘り多く貨幣に期待する所ある可らざるや特筆大書す可き次第なれども、然かも立法の力に依りて不勞所得に對する課税より得られたる金錢が大いに革新運動を助け之を促成するに力ある可きは之を認めなければならぬ。唯だ併し乍ら貨幣に多くを期待する勿れてふことは、重ねて一言を要する所であつて、眞の革新は吾等の精神が投機と利得とより解放せ

られ、生活に對する眞卒なる態度と、人生の眞價値に對する正當なる認識との行はるゝに依りて甫めて能く成就さるゝを得可く、吾等の心が金錢に捕はれたる限りは、吾等は永久に奴隸的境遇を脱し得る望がない。現今人々は餘りに事物の眞價値を輕んじて其の市場價格に抗泥して居る。此の抗泥より脱して市場價格を輕んじ眞價値を重んずるの氣風を作ること、また實に社會革新の必要條件である。

仍て之を國家的利害より考へて、即時に實行せられざる可らざる國家經費の増加は、之を二方面に於てす可きである。一は農業の繁榮の爲めにす可きもの之で、農業は實に其の市場價格に於てよりも其の眞價値に於て國家的生活に最も緊要密接なる關係を有するや、絮説する迄もなし。他は即ち今少しく藝術の保護の爲めに經費の用ゐらる可きこと之にして、然かもそは手工業技術を恢復せしめむが爲めに手工業者を保護するに在る。而して其の保護の行はれ、技術が再び生命を帯び來れば、吾等の生活は失はれたる美を恢復して力あるものとなるであらう。産業と美術とは民族の精神的勃興の爲めには最も有力なる二大要素たるを忘れてはならぬ。<sup>10)</sup>

此の手工業復興の業を行はむが爲めには、ペンチー氏等は中世の手工業組合制度ギルド、システムを再興するは最も策の得たるものとするのであつて、組合社會主義の然る所以は此所に存する。

中世の手工業組合は、社會的なる宗教的なる政治的なる且又産業的なる組織として、實に人生

活の統一を表現せるものである。茲には暫く其の宗教的並びに社會的方面を措きて、政治的並びに産業的組織として之を致ふるに、組合社會主義者等の見る所を以てすれば、將來に於ける社會生活の調和の爲めには、將來の社會は必ずや組合制度と同一主義の上に立つ同様の組織を必要とせらるゝ。試に中世手工工業の組合制度の任務とする所如何と見るに、その最も重要なものは二つであつた。一は相互互助ミューチュアルエイドであつて、他は生産上に於ける標準の保持といふことである。相互互助の點に關しては中世組合は獨立なる親方連の共同團體たるの面目よりして、組合は其組合員各人に對しては十分なる保護を爲すに怠らず、其の爲せる所は現時の貧民法フアイロウの爲す所にも優り、然かも之を爲す精神を異にした。次に生産上に於ける標準の保持に關しては、組合は各組合員に特權を與へ、以て一方には不正競争を防止せしむると同時に、他方には仕事に餘暇を與ふるに心掛けた。蓋し製作が常に商的掛引の爲めに壓迫せられ、又仕事の上に於て種々の不正競争を受くるに於ては、到底立派な製作の行はれ難きに加へて、眞に美事なる製作の行はれ、品質の優良を期し、其の標準の向上を計らむが爲めには、仕事は十分なる餘暇を以て行はれざる可らず、唯だ利得の爲めに多量の生産を爲すが如きを以てしては、到底優良なる製作は行はれ難きを以てする。<sup>11)</sup>

尙又右の目的の爲めに中世の組合制度の下に在りては、勞働は統一せられ其時間制限せられ

11) Old Worlds for New, p. 47-49

使用人の數も限定せられたるのみならず、其の作品も制限を受け其原料に關しても規約あり、出來上りたる品は所定の検査を経ざる可らず、親方たる者は一定の特權を賦與せられたる代りには彼等が職業に對する責任も重大にして、其の製作に對する良心の鋭敏なりしことは實に感歎に堪えたるものがあつた。

更には又中世の組合制度は同時に一の教育機關たりしこと見遁す可らざる所であつて、諸種職業の組合は謂はゞ之れ其各方面に於ける單科大學で、組合組織の下に在る一都市は即ち其の綜合大學たるに似たるものありとする、レザビー教授の言は至言と謂はざる可らず。現時も尙其梯は多少保存せられたる次第にて、大學は即ち之れ學者の組合たるに外ならずと見ることが出来るであらう。<sup>12)</sup>

然らば進みて右の如き性質任務を有する中世の手工業組合制度は如何にして復興され得可きかと致ふるに、其の手段方法に關する議論を爲すに當りて、先づ了解されざる可らざることは、中世組合制度は社會が現今爲しつゝある進化の道程に沿ひては到底復興さるゝを得可からず、社會進化の正軌と考へらるゝものに對して寧ろ逆行する或種の勢力の發展に依りて甞めて能く復興され得可きものたることである。此等の勢力の中第一に組合制度の復興を助くるものとして擧ぐ可きは職工ツレヒト組合コンギオン運動ムーヴメントである。職工組合は現存のもの雖も已に多く中世手工業組合の行つ

た所を行ひつゝある。即ち例へば勞賃及び勞働時間の制限の如き、病者及び不運に會せる者に對する救助の如き之である。而して又職工組合は中世組合の如く初め極めて弱少なるものより發達し、終に全職業を支配し得る迄に進めるものである。職工組合は又中世組合と同じく政治的結社にあらずして、社會の弱者を強大なる者の壓迫に對して保護せむが爲めに自然的に發生せる任意的團體である。併し乍ら現時の職工組合は中世組合とは次の三點に於て相異つて居る。(一)職工組合は其製品に對して責任を負はざること、(二)親方は組合員となるを得ざること、(三)其職業に關して獨占權を有せざることである。而して此等の相違點は何れも重要な相違點であつて、踰越す可からざる區別を爲して居る。げにや現時の如く産業が全く金儲業者と投機者との手中に在る間は、職工組合を化して中世式の組合組合たらしむることは不可能である。現状の續く限りは雇主と勞働者とは同一組合に加入することは不可能である。

されば問題は現時の産業は依然として金儲業者に依りて支配せらる可きか、將又將來に於ては親方たる技術者が代りて其地位を占むるを得るに至る可き理由ありや否やといふことに存する。然るに親方たる者が金儲業者に取つて代る可き理由は十分に供はつて居るのである。由來投機は自己滅亡を齎すものである。現今投機は甚しく勞働者を衰亡せしめつゝあるが、此點に於てそが成功すればするほど、同じ程度に於て商品に對する現實の需要を減退せしめ、結局は其の利益配當



の泉源を枯渇せしめつゝある。同時に又現今に在りてはフランクフルト大工場をば小規模のウイーン仕事場に依りて取て代らしめつゝある二大勢力の働けるを認めなければならぬ。其一は低廉なる代價を以てする電力の分配と、其利用の盛に行はるゝに至れることであつて、他は一般に於ける趣味と手工業技術とが、漸くに向上せんとしつゝあることである。

恰も産業革命の時期に當りて、蒸汽力の利用が終に産業の集中を行はしめ、大工場の發達を促せしが如く、電氣力の利用に依りて動力の分配が自由に行はるゝに至れば、將來に於ては、小規模なるウイーン仕事場の存立が可能となつて來る筈である。工場組織の發生は蒸汽力の利用に先立ちて行はれたるは事實なれども、之は手工業技術の衰頽に依りて先立たれ、此事は必竟生産上に於てユニオン統パトロンを以て變化を征服せしが爲めに表はれ來りたる現象たるに外ならぬ。されば今恰も之と同様に一般に於ける趣味と手工業技術との向上の行はるゝに至れば、それに連れて工場組織は漸次衰亡に向ふ可きこと推察に難からざる所である。好き手工業技術は仕事の品質に就きて大いなる注意を拂ひ、仕事は十分なる暇を以て之を爲すを要求し、從て又職人は其仕事に對して十分なる代價を得むことを要求し、同時に又雇傭の安全に對する保障を得むことを要求する。然るに此等の事は現時の營利主義や工場組織とは互に相容れざるものなれば、一方が通れば他方は亡びざる可らざる運命に在る次第である。

次に中世組合制度の復興を齎す可き道程を調へつゝある第一の勢力として Arts and Crafts Movement を挙げなければならぬ。此の運動は凡よ三十年以前に William Morris に依りて起られ、手工業の復活を企圖したものである。即ち美術特に工藝の基礎は手工に在るを信じ然かも現時の實狀に於ては美術家と工業者とが全然分離せるを見て、此運動は両者の再結合を促さんとするものである。而して此運動は現時に於ける餘りに機械的なる生活に反抗し、美に對する其の不感性に反抗するものである。從て醜惡なる財貨を多量に生産するを意味する所謂産業的進歩に反對するものである。また此運動は人を化して機械たらしめ、美術に於て得手勝手の分類を爲し、又直接なる市場價格を産出すること換言すれば利得の大小を以て美術的功績の主たる標準と爲すが如き時勢に反抗するものである。而して此運動は各人をして日常普通の事物に於ける美の共同所有を得せしめ、現時一方に於ては奢侈的過多の爲めに、他方に在りては普通の必要品をすら得る能はず餘りに生活手段に就いて憂慮することに依りて、抑滅せられつゝある美に對する感覺をば、今一度喚起せんとするものである。斯くて人々をして日常の事物が美しくせらるゝことに依りて極めて純潔なる然かも甚だ普通なる歡喜を得せしめ、つまり美術を通じて相結べる生活と、同情に富める共同的生存に對する大いなる社會化の力を作り出さんとするのである。

然し此運動は從來餘り著明なる發達を遂げ得なかつた。其の成功し得ざりしには理由がある。

惟ふに此種の運動は其の美術哲學と相叶ふ可き社會學的理論を具有するにあらざれば到底大いなる實勢力となり得るものではない。然らざる限りはそれは一般民衆と出會す可き共通の地盤を有する能はず、社會の援助を得ることが出來ぬ。然かも其援助なき限りは、社會改造の一勢力としての其價値は頗る乏しきものとならざるを得ない。げにや現時に在りては美術は漸次増大して休むことなき營利主義の壓力の爲めに社會外に放逐せらるゝか、然らざれば進みて社會改造の任に當る可く奮起するか、二者其一を選ばざる可らざる十字街頭に立つて居る。而して美術が能く存續し得むが爲めには、後者を選ぶの外なしとして、扱て能く之を爲し得むが爲めには、それは必ずや他の社會改革運動と相提携して進むの外はないのである。然るに Arts and Crafts Movement は此點に於て缺ぐる所があつた。之れ其失敗せる主なる理由である。<sup>13)</sup>

此の運動は不幸にして失敗に終つたけれども、併し詳かに現下の狀勢を察すれば、さしも優勢なりし唯物的思想も今や何となく其勢力を失墜して、唯神的思想の復活し、倫理觀と或種の宗教の必要が廣く認められむとしつゝある。されば今や一般的に人心の革新を行はんとするの運動は社會の必要に應ずるものと謂ふを得可く、現今精神的改造の必要に於ては學者も藝術家も哲學者も宗教家も、利害を均しくせざるを得ざる所である。而して現時に於ける科學の大進歩は右の如き傾向を益々促進する次第であつて、然かも亦現今藝術上に於ける正當なる標準が漸くに樹立せら

13) *ibid.*, pp. 73-84; *Old Worlds for New*, p. 104-

れんとし、其本性に關する哲學的見解と相一致せるものゝ樹立せらる可きことの有望となり來れるは、大いに人意を強うするに足る所と謂はねばならぬ。洵に現時に至りては美術の根源は手工業（インダストリー）に存すること漸くに再び理解せられむとするの傾向を呈し來つた。

事情斯くの如くなるが故に、今や美術に於て醜僻しつゝある新しき思想は、漸次に其道を人間活動の他の諸方面に向つても開き來る可きを豫想することが出来る。斯くて現今新しき精神の發育するに適する土壤の漸くに調へられつゝあるを知ることが出来るのであつて、美術に關する新しき理想は一般精神生活を振興せしめんとしつゝある。固より美に對する憧憬が獨り能く宗教を構成し得るものにあらずれども、只管に富と醜俗とを追ふて走るよりも、人生あらゆる方面に於て美を求め之に憬れて進み行くは、吾等の生活をして一層精神的ならしむるに足る可きや疑を挿む餘地がない。精神的生活の諸理想は由來美の觀念と繋聯した。而して精神的正理は美しき形式の仲介なくしては表明し得可きにあらざるが如く、形式の美も亦結局は精神的正理より分離し得らる可きものでないのである。

洵や近世に於ける急速なる機械的發展は世上の悲惨を減少せしむることなくして、却つて之を増加せしめた。金儲は多數者をして富裕ならしむることなくして却つて大多數者をして未曾有の貧窮状態に陥落せしめた。自由貿易と世界的市場とは國際間に和平と好感とを齎すことなくして、

却つて世を擧げて大鬭争の修羅場たらしめた。斯くて今や世人の大多數は、現時の文明が喜を添ゆるよりも悲を加ふることの却つて大なるを見て、五十年前カーライルやラスキンの之を試みしが如く、悲痛の聲を絞りて、文明の抑も那邊に向つて進まんとするかを問はんとしつゝある。現状の悲惨は過去の幸福を偲ばしむ。斯くて中世組合組織の復活を促す可き或勢力が現今の生活の真唯中に醜僻しつゝあるは決して怪むに足らざる所である。然かも惟へ、過去を憧憬するは聽て之れ未來に生きむが爲めなるを。而して過去の幸福を復活せしめんとする努力が常に大なる進歩の動機を爲すことは、之を文藝復興の大運動に徴し見るも明かなる所である。<sup>14)</sup>

總て右等の如きはペンチー氏が、人心の改造に依り徳性と審美性の涵養を以て現代人の生活の方向を轉換せしめ、美術と職業との一致せる状態を恢復し、之に依りて生産上其他一般に産業上に於ける現時の杆格齟齬を除き、以て將來の圓滿にして整美なる状態を造り出さんとする理想と實行方策とに關する議論である。而して氏が其爲めに中世組合制度の復興の必要を提唱するは、其の主張が組合社會主義として彼の國家的組合社會主義の主張と共に、社會主義思想の一分派を爲すとせらるゝ理由であつて、個人の自由と獨立との基礎の上に組合組織を復活せしめ、新社會組織として舊社會制度を再び興し用ゐんとする所に、其の社會改造に關する實行方策は宿るのである。此種の主張に對しては固より多くの疑議や非難の起り來るを避け難い次第であるが、其の主

張の根柢に於て問題の真髓に觸れたるものあり、特に人心の改造を以て主眼と爲し、事物の調和整美を尊び、之を以て生活と經濟とを貫かんとし、それを齎すに適する制度と組織とを造らむとする論旨に對しては、吾人は十分なる尊敬を拂はざるを得ないのである。

然れども氏は上に論じ來れるが如きはたゞ之れ現時の社會を救済す可き大原則たるに過ぎずして、實地に之を現出す可き實行方法に就きては、更に茲に之を一括して差當り爲さる可き事業の項目を掲げなければならぬとして居る。然らざれば議論はたゞ議論たるに止り其の實行力の伴ひ生じ難しとして居る。蓋し現代人心の改造といふが如きは餘りに一般化されたる命題なれば、それは實行に對する指導的命題としては聊か空漠に失するを免れ難いからである。仍て氏は差當り爲さる可き事業の項目として、

- (一) 社會問題に對する正當なる致慮を獎勵すること、
- (二) 過去憧憬の氣風を復興すること、
- (三) 趣味の涵養
- (四) 道徳的要素を教養すること、特に商業に關す道徳の涵養を爲すこと、
- (五) 個人及び國家の救済手段として犧牲的精神の必要を主張すること、

を擧げて居る<sup>15)</sup>。而して以爲らく、右第一の事項の必要缺ぐ可らざるは絮説を俟たず。第二の過去

15) *ibid.*, p. 96.

崇敬といふことは、過去の生活に於て眞實に善美にして價値ありしものを尊敬するは、啻に合理的なる文化の基礎を造り得る所以たるのみならず、現時の生活に於ける不合理と不權衡とを解得し、文化の進歩と退歩とを識別するを得せしむるに効あるからである。第三に掲げたる趣味の涵養は、啻に人々をして如何にせば合理的に生活するを得可きかを知らしむるに足るのみならず、ユマニタリアリズムそは營利主義を撲滅するには最も必要な事項たり。蓋し現時の營利主義は現代人の趣味の一般的墮落に其の根柢を打込みたるものなれば也。次に道德の涵養の必要は現時の如く經濟取引よりオキスマチ正直てふことの亡滅せんとしつゝある時代に當りては特に高唱せらる可き必要がある。而して最後に個人的犠牲の精神の必要を主張するは從來兎角社會改良論者が之を忘れたる際、特に意義あること、せなければならぬ。由來犠牲は生存の法則である。大なる利益の爲めに小なる利益を犠牲にし、個人にして社會一般の利益の爲めに自己の小利益を犠牲にするの覺悟なき限りは、相互共助の大主義は所詮確立され得可きに非ず。共同生活の圓滿と一般的福利の増進とを基礎とする新社會は、此の犠牲に對する一般の覺悟なくしては到底建設され得可きものでない。

然かも忘る可らざることは、此等の事業は、社會一般の同情と努力とを俟つて甫めて効果あり得可きものなることである。民衆一般の組織的助力なくしては、少數の智識階級の人々が如何に熱中するとも、奔走するとも、社會改革の事業は終に能く其功を奏し得可きものではない。<sup>16)</sup> 嗚

呼惟へは、吾等は何時までか現時の如く殺風景なる生活を持続せんとする者ぞ。詩と宗教と理想と藝術とに對しては、頗る冷淡に、而かも俗惡なる成功を崇拜し、尊む可き能力を狂暴なる投機的事業に銷盡し、惜む可き餘暇は之を無意義の奢侈と浪費と興奮とに費しつゝ、何時迄か營利主義の捕虜と爲つて生存せむとする者ぞ。人と國家とに取りて貴重なるは物質的なる富の獲得よりも精神生活の幸福に在る。之れ社會問題の吾等に教ゆる所である。此の眞意義を解せざる限り、社會問題は解決せらるゝの特なく、吾等は現代生活の暗澹たる迷雲を脱出し得るの期なかる可き也。<sup>17)</sup>ペンチャー氏何ぞ欺かんや。吾等は社會一般に心を合せて精進邁往し、何は扱て措き精神生活の改造を成就せなければならぬ。

17) Restoration of the Gild System, pp. 102-3.